



四季
今
様
發
句集



いさなり、水鏡多し、いさなり物は今、いさなり
依り、時勢、いさなり此と、いさなり統、いさなりと、いさなり
和し、いさなり是、いさなり書、いさなり物、いさなりを、いさなりか、いさなりる、いさなりよ、いさなりる、いさなりと、いさなり
後、いさなりを、いさなり柳、いさなり香、いさなりし、いさなりと、いさなり依、いさなり事、いさなりう、いさなり形、いさなりと、いさなり地、いさなり、いさなり多、いさなり数、いさなりハ
終、いさなりて、いさなりよ、いさなり多、いさなりむ、いさなりら、いさなりつ、いさなりき、いさなりめ、いさなりも、いさなり似、いさなりし、いさなりら、いさなりん、いさなりし
は、いさなりて、いさなりら、いさなりゆ、いさなり然、いさなりい、いさなり中、いさなりう、いさなりと、いさなりい、いさなりら、いさなりん、いさなりり、いさなりき、いさなり雅、いさなり言、いさなり
法、いさなりと、いさなり乃、いさなりも、いさなり端、いさなりを、いさなりと、いさなり叩、いさなりき、いさなりと、いさなりと、いさなりと、いさなり

ふ政子まき

吾師勝彦

ちれハ咲き成一りく
 梅うね 月居
 梅うねいすそのち
 うめうね也 素葉
 後あさて、ま風流に
 梅うねか 学うま
 ちれハ咲き成一りく
 人よふ山流に 翰友
 争うあさくちあに

けくく改修之 季成



春

走と出るあよ 九歌
 引のうねおち 萩列
 子のれれいく春も
 若木中のみまら 蟻洞
 あくうまてあど 牛奔
 おもひあさくちあ
 戸あくくそ波も
 ちれもてうまらあ

星備



海にゆるぶるや 節 晋 如
 とりく 梅 橋 子
 田よゆれハ羽 大 森 藤 子
 山中也 栞 人 ね 保
 之 二 秀 考
 うめくや 竹 表 え
 志 ぬ の ち ち ち ち
 竹 江 際 篠 川
 あ ち ち ち ち 春 吹 ぬ ち ち 松 林
 山 甲 也 垣 の
 ね ち ち ち の ち ち 雄



春

沈むるおとて
 春乃月 竹 香
 春を山を
 言さ 橋 江 美 志 丸
 さ ち ち ち ち ち ち ち
 さ ち ち ち ち ち ち ち
 さ ち ち ち ち ち ち ち
 子 ち ち ち ち ち ち ち
 つ ち ち ち ち ち ち ち



春



梅よりふ日初とあはれと
 山家より舟
 折るまじりや江上の梅は
 ぞとぞ乳
 湖月
 ゆく春も美夢よりし
 教の件
 花雨
 春風今さらおし梅を
 ばらばら
 旅より
 飽くともやふ
 くれは

夢に花

夢

夢の柳~~~~~仕車う那
 糸にむく~~~~~
 うまのふい正月の末や梅は
 梅折るやほくもふ人より
 旭
 眠にさるんりさるん月と梅
 夫ら~~~~~
 新燈もあむお入お身とふ
 きおよのう~~~~~
 新しん~~~~~

あつ蒸つて挿しこむさう挿の水

上巳

麻の中を遠く餅とり成りきり
うねみ雲より花のさきふりぬ
けりしつじよきこぬれ小窓の中
教にハこむむより花よあまらなく
茶の戸より後引ぬくやふ仕舞
嘘もなきをあつぬれぬ
挿し吹く後のもきて糸ささる
山より拾いぬれささるらぬ
ふのむく木を空へ挿のささる
新妻よ遠くよもかふ草の石

立春

夾ふぬつとりふちち鹿毛山もが 和舟市 不住

ちるのつりとらんや萩家の青葉 今井 巴人

菽寺や夾ふちめくる水よ " 竜子

若水

あふぬち米と " 星のそ 菴鳩

万歳

こがや旭 " むらみ米袋 一校

きのの " ち " あふ山 " 和舟 竹雄

数入

羨入や奴の畑のあきつて

イミミ

別鯉

やふりりのせ波ふりり山終

春鳥

春鳥

小松引

ふよ弦ふ山水をこし小松引

佐松山

文和

奔

人の木のやうよおれりぬ

梅屋社

木冬

ぬくハ海のまこけりく柳

和歌

朗光

柳よまき者や旭のまき

越三山

芥和

夕うまの奔よ終る川

忍

不佳

とやうこのまきをぬかぬの柳

昔采さよれくるる聖修の柳

不

不佳

舟と目のあきる柳よ風やぬ

此

此漣

流のまきしそや柳のころ

玉

玉菱

あふ足の服よふろりの柳

一

一技

霞

むのさく木をまきんよあうり

和今井

薩堂

此人のまきぬまもかき

春

春喬

るるうらう柳ふとみし

郎

郎光

眠よ身成おくや霞のま

芥

芥和

今う越てまきく日のま

雞

雞安

人待りよゝと名やあはれおのち

巴人

残雪

菱うけやうらうらうと雪をぬる

雑歩

十文字や梅さきとあつと結る雪

淵鯉

河尼

舟吹や雪よりうさとの海へ

は漣

猫意

井の中の魚あはれし猫の意

楊屋社 蒼夕

梅の戸の表法岸へ魚猫の意

竹雄

元日

元日やちのしとあくすめより

河之介

盃 浣

かんりりと元日のあきとちのし

全

元日も雪はあつとちのし

松山

あ 松

門松

門中の燈はにたるふ

全

るのあききねともし

松山

晋 和

若水

若水のしつとあききねともし

松山

太 柏

若水やあつとちのし

竹 雄

年男

新のうや香の何よ家のこゝ 雲 估 出 豊 柏

初夏

さくらやつくしきさそねの夢 きよ 菊 友

冬連

さむい乃まゆにさつて戻りゆく ワ 下 市 三 高

さむい夜もふ梅千ね子ル 三 竟 子

番部

さむあろー 早のふいー 本のろよ 今 下 市 鼎 菴

さむいひもさつてさむやろ番部 下 市 鹿 村

初日

つらさつと 菴に何さる初日 初 下 市 子 玉

山崎とや雪のふくたまる初日 口 今 下 市 ハ 峯

飛鳥さつと 初日のふたにさつる 三 鼎 産

梅

梅さあに 菴にさつし 涼や 三 祇 白

梅ささや 菴にさつる 估 出 山 君 竹

大壁や 在くろけさ 月め 三 不 良

阪らつと 梅さつる 三 菴 戦 艾

近所乃 梅乃 私 市 門 詔 丈

まつとてあぐれぬねく松の舟 淡志文 吞る

咲かるとにさくらねに松のちるほろふ 成 成

かかるとはももろ強けハ松のちる 河 河 里松

すくちまもものにつく松強弟のちま 吉野山 秀草

柳

とせ流の改たうこく柳のちる 文 文門

啼るる者か次柳のちる 志 志 楚江

松の柳乃門とちる 男 男 宗

大ををかさうにまよふやねま 郎 郎 光

白真

白うねの常とてすく日南の南 河 河 島 田 土 芳

古采

うらあに聖の文の終ま 松 松 山 化 徒

のちるもあかりあ 鼻 鼻 眉

若子

うらあにわけてあ 三 三 島

うらあにわけてあ 采 采 良

山笑入

うらあにわけてあ 士 士 芳

雲

昔とてそ禁かろくもや せり竹の長

うなひもや 糸に似て山竹の長

昔も 月あしうふかたしうけはな 西征時 菱六

昔も ねり海くむ 海家一のな 祇白

木の巻

田のへきもりのおねもるまのめは 松山 柳水

そいぢく末の昔も 海家一のな 晋和

すめ子結け南にうらめしうのめは 八景

竹

昔も ねり海くむ 海家一のな 今井 せお

雪指ヌキ

山竹のちう夢おねきけのめ 祇白

昔も ねり海くむ 海家一のな 松

昔も ねり海くむ 海家一のな 松

余巻

山竹のちう夢おねきけのめ 全

昔も ねり海くむ 海家一のな 晋和

昔も ねり海くむ 海家一のな 守州

昔も ねり海くむ 海家一のな 晋和

昔も ねり海くむ 海家一のな 全

山はとハ梅の月夜を穿ちて
の影にようんうまて時の夢
うらたの雲を千巻る竹影

松ノ花

つゝかきつ猶夜は夢をたの華
花の細の馬帽より流れてたの光
後のほや吉めし〜もつらつら
世につねて山ま〜ぬく〜松の花
新山やとさ結す心と歩つら
日あ〜りのや〜も〜なく松の花

太松

共友

幽松

祇白

全

晋和

全

升雄

太松

鶯

〜のよの羽香ひ〜ささのあり
〜のうけ〜こと小川うな
〜のす〜おろく長〜し
〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の
〜の〜の〜の〜の〜の

吉き

護山

山霞

護山

白鷺

イタ

松山

山霞

雀山

静月

長采

くまのひらりよさうぬ残り
のふさこぬこかたのひらり
かまのひらりよさうぬ残り
のふさこぬこかたのひらり

可村

玉葉

護山

静月

二月

つちもつちのゆきまの二月
ふらりとゆきまの二月
二月やまの雪あり二月
静月山
山霞のなごりも世に二月

玉葉

山霞

栢亭

静月

山霞

花のまじりたるよ衣の二月

イタミ

二鳥

初午

くわん午ぐりくまの二月

白鷺

帰一

あつたくまの月と雨のふらり
まぬてやまのまのまのまの
あつたくまの月と雨のふらり

イタミ

五琴

蟹托

福丸

数入

美入りあり川あり雨の海

眉岳

細打

むらさきおのてらにうきまの畑

雀三

さくらさかばらにうきまの畑

此連

もてあまのすまにうきまの畑

二鳥

しきふもれも畑の男が

福丸

初桜

雨空のよひの白かきしつしおき

五琴

よりの桜あまのむ山にうきま

桔柳

あけおのや神さうまにうきま

静月

凡巾

いとあまのむらさきにうきま

如英

二日葵 彼岸

二日葵も若も葵のうきまの畑

竹雄

番人うきまの畑あまの畑

霞村

たせまきさうの畑あまの畑

春喬

暖 帰厂

あまのうきまの畑あまの畑

ト之

あまのうきまの畑あまの畑

此連

あまのうきまの畑あまの畑

梅莊

あまのうきまの畑あまの畑

志也

庵の表やいふあまの畑

此連

雲ヒロキ

梅の枝は表もあはくとり之
 霞村
 一枝
 市ノ岩ハ而しとて一丁の梅の色
 一枝
 小川にけふまき守終ハうつる丁
 不任
 屯のちる日如似し梅の
 馬系
 聖ハやく小田の花とてうきとて
 一枝

梅木 若叶

花すくくつるるくく梅あふれ
 不住
 梅木すくくくくくくくくカクれ
 兀鳥
 五平もやふくくくくくくく山の家
 池尻
 仕候

馬系
 志也
 ありそ子のあふくとあふれあふり

雲雀 陸

雪頂
 太柏
 花酔
 此漣
 竹雄
 卜之
 吐山
 和下水
 雲雀
 陸
 山水と心あふれくくくくくく
 太柏
 鶴
 夕飯よもあふりあふり山あふり
 此漣
 月の節あふりしすしとて梅陸
 竹雄
 陸の表ハ細あふりくくくく陸
 卜之
 陸多くあふりちよ月と水

城よりやまき四の月おが

梅莊

梅の香四ヶ一房ゆきとつ城

下市 孤洲

松ゆきして七弄のや夕陸

つこ 烏六

板は志え一店よまほして多陸

薩雲

船よりて海しやとつ城

菜茶 畑市

ふの屯や夕むりする磯の波

千玉

奈の屯や流るかりし店海板

薩雲

まの屯や人よりまきと影かくま

護山

畑市より及七あり此のそと

烏六

初午

初午やアまきしなまくまのそある

ワカ 眞 雲

初午や梅よりまきと一のそある

合丹 吳 友

初午の歌すもつ初しるをまき

廿年 虎 杖

初午や人出さるはつ田つこ

嵐 谷

撞月

丸しと出さるつらなかくおちる月

則 丘

月のかけこれあつらつらと月

腫 八 峯

撞月とまきつ月となつらあま

作カ 里 羽 友

二月もあつらぬ月をなつら

鼎 菴

こゝろに秋とていさなりけり 狩月 守洲
あつたよき時を 筆にこそかゝる月 叶 雄

被学

ついでに秋とていさなりけり 呉 友
葉のうまひをうんのなや入るまゝ 全

ゆかりを龜よふ人もいふ人う車 北 雪
知ふの心をもいふぬ 被 岸 叶 周

ねにちには雲とていさなりけり 聖上長 後 蘿

去丁

まのふとていさなりけり 作カッ山 奈 人

あつたや丁もついでに秋とて月 鼎 庵

あつたや丁もついでに秋とて月 叶 雄

あつたや丁もついでに秋とて月 依木山 菊 意

あつたや丁もついでに秋とて月 香 和

あつたや丁もついでに秋とて月 全 百々 春

あつたや丁もついでに秋とて月 全 芦 川

あつたや丁もついでに秋とて月 全

あつたや丁もついでに秋とて月 詩 夫

あつたや丁もついでに秋とて月 下市 真 子

あつたや丁もついでに秋とて月 六 二

雀の子

そらばたぐいこれハ啼きなり雀の子ニホ山 蒼波

花の子なすくやニ葉の影根乃子 呉友

白きをりや最良にうつる雀の子アハカ 李 往

傾き

うげうやや牛トたあきなるあき音 呉友

況

いづれうら山えくる門をきつゝこころ 辰村

さき方ゆや、くらの花も規ーる 兼 他

涅槃會

志のなきの人を是のねんじん哉 泉大ッ 其正

切りの音を佛も死てこもよなり 一枝

祇をんそや尾まくもる鶯の声 頼友

垣の花はれもはる啼ねをんが 賛孝

後月

とちうから鶯よきそふと月 難安

ふきの白つとく出月やお月うらと 丹甘山 五陵

流臺よその花はきりあわろ月 栞式

春風

寺

まを川う吹かきくくくく青鷗

菊明

そのまをひひ結人こそひまの風

杜蒙

椿

幾重も見ふ折つてささく椿う草

雪齡

かゝくく織布は日半あて椿さく

五陵

人もくぬ小あよ見もや赤椿

吹布

枝の枝の雪をさあやこれあち椿

万葉友

雪ハこる地みおちつてや白椿

雪齡

凡巾

ふくれきて凡巾も流たり庵の定

素麻

雉子

世よあれを雉子もきりしその枕

素麻

このをきりて出せとまきりて雉の色

雜歩

雉の羽床もありこの枝のきり

如蒙

乙子

家ありとともふ山陰の乙子るる

素麻

蝶

てふ飛や有ぬとて御一のく

古川

人訓るおと後きりその蝶

賢孝

てふ飛やまよあつたる翅の光

古川

てしやめりて我を盡すもなる
一枝

焼野

不^一かほしむや焼野よりつぎ
古川

河星田
雪丸

もちりあるもあ^一く小焼野が
一枝

長保

の^一めさ候一日を^一つくるハ考ぬ
賈孝

長保さやあ^一く田原も水の何ら
古川

三月 雛 蛤

旭さ候世々三月のも^一くけき
此漣

三月や出や^一くしとす^一る工火
吐山

三月のぬけ糸や人よあ^一くぬ^一ひ
芥和

深山木や弥生も人の言もあ^一候
此漣

も^一の雛や茶お似^一く^一り
吐山

雛のるよ^一く^一て^一半^一れ^一る^一雀^一れ
芥和

地^一の^一く^一り^一音^一や^一雀^一の^一風
兀鳥

も^一あ^一く^一りの^一言^一よ^一通^一ひ^一り^一疎^一の^一雨
吳秀

あ^一り^一つ^一あ^一て^一地^一く^一る^一や^一ぬ^一の^一音
吐山

於ハ賣しあふあふあふ暖し

孤洲

桃 順峯

土うりよ出るとるなり 桃の花

鳥六

菽寺や思つつけられて 桃花さく

雜歩

人の元のはうぬ月あやもよの巻

一枝

昔かしゆひ埴やもこのもな

、

くみもむれてけりや度段も花の花

、

思ふ月よ隠れぬ花の元カ身

吳秀

峯入やほ世を捨る山もたう

不住

ちくしと音をふんするや脈の響

文和

春水 鳥巢 茶拈

唇月を水田よりてやまのふ野

孤洲

まのぬ雨のあうみ流のたり

此漣

夾の水すむせハ雀うふらうり

万利

多の鳥あまはうするそよおのぬ

三ツ丸

多の鳥やあもしの中よおの声

一枝

啼鳴出すすつりのあや枝の巢

、

多の鳥あまはうし 意の月あが

、

移のいふやまのうの茶つし山

霞村

水よ日をまじりやう葉つしうまの傍

賀孝

はぐし けり春

白ついでしらくれはつぐや鬼の毛 詩文

あそひ言けくれまはさうりたり 賢孝

猿よあれは夷のけりのも眼よ人のゆる 万利

けりありよまうりもまゆけ芥田が 馬宗

けりまやまうくれすもあしれち 三喬

けり夷をあししるのけりよたり 霞村

けり夷やまよとくれまき柱 棹翁

けりまをかーハ松のまきりくれ、 卷醉

ある人も皆人もたうし夷のまき

浮生

らあはむむ工せもまもるやういも 則五

あまふ山ふ夕落井しむほまう外 其友

そめまふいのしゆりてもほまう外 露亭

独目うあういもまけうやうい外 鼎庵

登仙樂

はぐし夷の氣も月おやの白り樂 半又

木の氣もまよまうこの白り樂 業裡

木あめ

こもり日のあうくまきしお糸布汁 高松

浦さくらや笠巻と双へて干し糸布 祇白

糸棠

うい〜や扱ハ七の〜き 柱の火 備北社 其馬

新茶

山吹のあゝ日つ〜く 新茶と 鼎庵

板の〜とま〜の〜新茶と 多より 林糸

三月茶

扱〜ハ〜け〜の〜 三月茶 祇白

夏

夕ぬけの〜 八峰

ま〜ら〜二〜の〜の〜下 並糸

ふ〜り〜と〜の〜の〜下 下市 産焼

山吹ハ〜け〜と〜の〜の〜 飯ラミト 孤峰

春〜や〜麻〜ふ〜足〜人〜の〜 幽松

一〜ふ〜の〜の〜の〜 刈丘

小坊主、もふ〜の〜の〜茶 茶裡

物替

せんまの〜の〜の〜 山吹 其雪

春の

新ハ〜の〜の〜の〜の〜 其馬

暮る中、夜以ふえ暮るての川 河 古帝百恭
 けりくと鳥の集りたるの跡め 別 立
 森をくして暮るまを中野の宿 孤 峰
 暮るゆのこころ中野とさうふりり 鹿 木
 けりゆの中野のふまゆのみをけりり 鼎 葦
 名を傳しやふ情しく暮るのあり 壺 池
 田の暮るの暮あしす中野暮るの 朗 光
 けりれと暮る友の暮るのふ二日 玉 音
 暮るるとふまのまを降ふりり 不 言
 暮るるとの口へ下りりりり 後 春
 暮るるとるる 後 春

橋

暮るるとの暮あしす中野暮るの 守 尺
 けりりりりりりりりりりりりり 鹿 木
 暮るるとるる 朋 石
 暮るるとるる 中 野
 暮るるとるる 千 玉
 暮るるとるる 赤 木
 暮るるとるる ア 橋
 暮るるとるる 一 橋
 暮るるとるる 東 野

夕出らるゝあはれうらみの半あまらう
服をさそく解もをくも衣襟 世語 子雪
五三の丸痛のちりたさくらさるる 立

雛子

新空やをぬししもの海まきす 立頂
船の色きしし船をくもくもつゆし 了重 我々好
きしし服はすうく船中の知り那 秀村
いふも船松をあつてまのま 了志湖
おれにつけられまきしものて思 渡山

去のころ

る屋敷 と心 心せうくまのぬ とと友
杖のさきにつらつら書しまのぬ 了保 風篁
二足の船を渡りまのぬ 佛 雛
まきの水泊りまのぬ 祇 白
めにさるる花をのまそまのぬ 全
まきの水ちりぬ花にたのぬ 云 焉
お日初也 アコ 東原
網代も六月とせう水を家のぬ は尾乃 一色
まきの水 柏 子雪

遠

礎りてえふハ陸の表しとらま 香之頂

をあらうものをもぬ水や鳴陸 書上臣 蟻糞

小田の白何もせぬ目を節一陸 牛之友

出りけりもた 節けりちう陸 全

ぬくもまき 小田を結る陸が 富五伯習

けり

けり丁のぬ出りぬもく山にたり 牛父

燗の

中をせし一ぬをぬきけり 了後酒

くして日うぬくともぬ燗をぬき 馬六

夕月う出りぬきぬちうり 燗をぬき 船浦男

ぬきぬちうりぬきぬちうり 燗をぬき 兼お

大田のけりぬきぬきぬきぬきぬき 富五丈花

田ぬき

をあらうものもぬきぬきぬきぬき 牛之友

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 三為る

けりぬきぬきぬきぬきぬきぬき 祇白

出代

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 牛之友

燗

五

人のあをかるるものしゆり	花
あつしきとくあつしきつらえのあつしき	鳥
つらえのあつしきつらえのあつしき	花
はらわらのあつしきつらえのあつしき	鳥

改行

あつしきあつしき改行のあつしき

永日

日ぞーと誰とくあつしき	尾	春
あつしき日つらえやあつしき	和	

元

あつしきあつしきあつしき	一
あつしきあつしきあつしき	花
あつしきあつしきあつしき	和
あつしきあつしきあつしき	鳥
あつしきあつしきあつしき	花

三

ふらききしきせうらるる	灯の燃く	竹破
水より	花の散るゆゑ	素麻
志の云ふおちひあつる	月あは	千和
飯森しきまき	人の志の山	万利
都ふあとの	子花の散る	文和
ふちりて	あひびく	菊明
るの者	志の者	其正
雨の虹	志より	牛破
ちりも	志やう	如策

春山

ひかりの春	も成	山	海	う	れ	千和
苗代						晋如
あゆ						栗利
流						晋和
余						鳥
鳥						芥和
る						獲山
る						葵春

月よりのつらき守りてきぬる
るらそとてふれはきののえりなり

万利
春銘

海

あふふやいふかこころの山日和
若かりてふきこころの夕うれ
夏のもはまきこぬ末はあじ

麻花
高頂
素麻

山吹

山のふしの新や新茶をおろす

千和

夏遊

夏をきく新や新茶の所あり

高頂

夏入る 夏草

あふふは入るや世のくはる
あふふは切る月あつし
あふふは入るや世のくはる

此連

はくし

ふつし松乃日新のふし

白鷺

蝶

蝶くやふしはあつし

一枝

孫生 草餅

夕月乃あまの孫生乃及陰式

光春

一鴨乃踏しゆあれまのしき
一枝
羊餅とふるや夕下乃聖乃まらこ
此連

永日

せきりやあまのあれてぬをぬ
全
ゆきりやあまのあつて梅友
梅友

別名

おのしひ鳥うろく草乃一も
赤挿

雄子

丁ことはを伐りかき一の色
梅亭
松系あまもそく之雄子乃あ
未照

花 橋

梅友
光春
鬼石
三鱗
一枝
楓谷
三峰
白雨
月窓
梅友
光春
鬼石
三鱗
一枝
楓谷
三峰
白雨
月窓

此連
九く
さりとてを遊し様ち松の中

草 山吹

一枝
又去しと男め垣柵もともぬ
山吹乃りくや月と風

全
山吹ちあはれ倒れとも嘆き久

切妻 交遊し

光春
切妻をえせしとをけり着せし

三驛
陰風乃るさくをらゆり

竹葉
草中乃ありと男を交遊し

夏み巻

外題

つこのやむしと

茅楓外々見えとももをみあり
あきく村まき彩のうぬきは月外
横じうぬきやうの青の郭么
又つえてしたのまねおと突とまき
月とては波はして来るき世風の
このくちを身にしめくしと杜若
らりとならぬ花ゆきもいさか
郭若ハ杜若も葉みきりうゆ
しはらうのうめのかははら

ささしに終のうちもなほわたりて
 年物くくつきの葉とらんしおみ
 月影とちうくに結ぶうき葉う
 水鏡まきしにまきまきへ作を
 来る人より夜給えせてお竹植
 みんよまきぬるありて

六月や身を望ま横より所せ
 影のわらわし田中の寺も見えぬ
 かり空のまきまき物いぬ舟が
 泣止むや年魚物せう影の兒
 涼しさをやこも影くの垣わ花
 梅と花は来ぬ秋ええて天は常

夏

くすくすも涼さ
 くくくくあり
 木海

ろろりおの月や
 ろのまきハ見
 嵐介

指んきう乾も
 うららけ 都智
 其庵

子涼し
 うららけを
 野るけり 湖介
 さくといひ日ハ
 咲くさくくくの花 菊利







深山ありしつらき命
 かくしき次 隠し 洗念
 海元よりる綾瀬山 淡路府
 五橋
 ありき 晴やうの吉
 三平ひ 郭公 恭事
 杉の勢は枯れ花
 吹出及木のるうま 長富
 四房の共とてさる命
 百合もさるうま 江戸

四月

あり乃花月四月の吉とありあは
 人乃あり四月の吉とありあは
 夕乃ありすまをえうくおと四月の吉
 あり掃ちと蝶乃出さのあつ四月の吉
 行乃ありもよとれは月の新あは
 ちくきたに月のはりしひあは
 ちあはく里乃はりく破のに月式
 更衣
 衣之く押片 諸るあはくし
 此連 朗光 蘭水 九々 此連 朗光
 楓谷

吉日の廉

露のあはれ五位とありとよまらぬ廉

如英

麦秋

とこさくくと月夜あかりぬ麦の秋

京

菜居

あけけし八世入るる麦の秋

吳白

短夜

みしうあやも忘るるもあき世のふか

朗光

牡丹

牡丹咲きよふらつらふさぞかしく

福丸

満中しくつらひちる月つらんか

露草

更衣

えうハ童やもぬもあやうかり

一枝

短夜

みしうあやも忘るるもあき世のふか

毛松江

竹九

あき菴の縁んゆしあはれぬ

一枝

短あやあもさうぬ田一牧

太拍

としうあはゆさうり月の窓あらし

鱗鱗

みしうあやも忘るるもあき世のふか

魯直

短あを流れすまらぬ海の春

蘿堂

菴のあはれあうりかうあうり

朗光

あけぬ衣のまきもあけしきる鳥
ゆきうらよふみけの都はくぬ
短衣も供し人山と月の色

郭云

山水ハ遊遊よりしむとくきす

昔々あつものうへ大を衣の位

時々のさうりやま舟のうへ

ぬれぬぬあやあきしるぬ隔

子親花ハちるおもくくらはる

船のまの土急くはしはくあは

一枝

万利

淵鯉

晋和

把本
久持管

霞村

詩文

竹丸

吳秀

昔々月あつ牛のあししうぬ

後りかつあつつまぬぬ郭云

とそのもあつうしむあや時々の

巻葉

あふちるあやあまあふあす入目

り換し古しあまあうあしの家

あおむやあふあその月ああるそ音

あつあつああああああああああ

あまのあああああああああああ

朗光

仕候

朗光

志也

芥お

熨髯

吐山

千和

地牛

あき草の中のうめりやわづらあり
灯のちりすけをめぐるや地牛
地牛やるよなまゝ人きけのそと
三香
志也
後子イ 兔六

花荵 改張

小多のひまゝの火もつらぬふ花
あゝんゝのあゝる事ぬるや花さく
ふ花をいおゝおより白ひまゝり
露村
露ニヲ 屠猪
櫛の香やあゝのさの八を花
葉の戸や故やの白ひもまゝり
久キ誓
呉秀

青草

まゝすこの花やおのぬまもほ
そのみよあゝ青まゝり青草
君十

麥秋

麦秋のうすれ月夜の丁にありぬ
たゝもせし麦の秋の吹つるぬ
湖外
一枝

夏末

夏末すまのあもあゝ夏末
秋さゝゝ子の人あゝ夏末
吾頂
芥和

うんこ

雪のしらべもこのころ降りかかるとも

湖介

本の下の方今もすくぬ果古き

徳松山 画川

つらき梅もくや木の香もく

煖鼻

久き何の枝ひそむの青

外友

鳴りけもくもに照る人こも

志也

か人こも日ハそまきあははな

千和

くもき推のちりよあはくきぬ

一枝

りもくりまや一本のがんこも

こせ 閑石

交世

爪のきやまゆもまの夕双い

け健

交世

老のねいりあもさりく夜久

さか田 一冊

衣之分別もまこと夜明る

こ 啓例

花世

むくすうら麻の衣を花世

桃五口

梅天

梅くやと薄くとるそをさ守

ハ峰

葉て小山田のあけ湯りり

貞子

麦秋

まらね小畑もくためと文うきり

三鳥

春秋や深きさつるこまうり

未々

牡丹

もはるもあつんのあつひりか

豊後

ゆきさてはつ〜いち〜あつんふ

三香

りあつあものつと〜と牡丹か

古確

そのすし世はあつんせよ牡丹さく只

成路

あ楓

まののやふ〜あ楓

呉玉

涙の氷りふ〜あ楓

童子

〜あ楓のまを〜あ楓

琴作

竹の子

ま〜又よ筆と〜れ灯籠か

榎三

竹の子あともものひきる板敷うか

詩文

筆乃〜つくとあや月乃あ

不住

杜若

葉人あ〜まの志そ都へ

一枝

おと〜すす木の君を〜あ

琴和

〜ああやあ〜あ

丸々

不二よ〜あ〜あ

朗光

杜若と〜あ〜あ

、

草あはちかたつくやゆもたす
あめあふりやゆあゆの都一云
あゆの都山口やゆもたす
杜之草あふりしくゆもたす

蚊

たもたしあふりあふりあふりあふり
蚊乃は此のあふりあふりあふりあふり

蚊

蚊乃は此のあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり

六

吳白

詩文

朗光

蘿魁

茶居

不住

吳白

反木立

あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり

世語

反木立

あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふり

二

反木立

つらあう日ハ入あう果はとりヨシノさ義
雲のふ小啼く六すれとくんとる
ひろさくゆてんそと啼くんとる
うんこる夜のたあさよ山也か

昔和

朝光

季川

牧

故のち中核の下行を火さく
川少移中たふ野のとふ月明り
あさ新敵まてけあさ栖うぬ
野まむのやまかあふさる
故のあさ中たふ山風ほ想ふ

君作

百曉

入母

杉込

斗父

裕

ろろ裕あさむく木かく
ろか色あきささくさひの裕うぬ

北映

千和

段ヤリ

ろろろろそそ葉のふもろく上
人のすむ井しとおもへらうやう
かやりして住すてもせらるる
あてろくよなるよはあのをやう
松の戸のろり客よ二あやう

如葉

文和

一枝

和池尾
神鳥改
即雀

松研

甲花

ゆめぬ命のふりまありさる
埋もれやあ人甲のまの孤香
命のまのうりうりやあ柱

五月

まの木よもあまうんそまのう
まのまの瀬くばしやまの月
さく波の物垣又通しまの月
まそまのうりうりまのう
まのまのうりうり岸のまもまのう

苺子

千和

万利

雀窟

菊明

一枝

北映

尼サキ 春翠

連庫

物まーやまのふれ越よ人の貞
人よまのまの秘ありまのま
百の海いふまのつきのふれま

茂リ

徳山 木且

晋和

犀サキ 春斎

灯のまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのま
山まのまのまのまのまのま
つりまのまのまのまのまのま
秋まのまのまのまのまのま

晋和

勢サキ 朗光

一枝

蟻舞

杜若

年ふるーのつてこそあれ杜の

北映

杜の月のもつ影のーつと

春高

青巻

さきさきふもやさき藤ハ雨の中

仙舟

あを巻のうけふあや田の荒

亀逸

瓦

ふたつー瓦のつまー

瓦畠

そいつまのねむさくえとや冷ー瓦

葵陽

つすの雲つくる板やふるりの

貞子

猫牛

知れしき人をお運ぶ猫牛の

百茶

そのらゆ猫牛の影ふあうより

笹葉

あつたおくや猫牛の影のうも

三考

戸ぬれハあさや猫牛此針の凡

是雲

あつたあさの影を丸く猫牛の

一語

虎る

ささきの中ふけりうとさうる

長衣

虎るあつたみれとる日さうる

鼎庵

あつたあさみせとさうる虎る

茶裡

水子の根も流るしとくくめ 鹿之本指庵
大木も竹もくくのまて鹿の雨 文和

石菖

石菖の葉は流るのりてこたの河 萩村
石菖の根も流るのりて小橋の家 采山
石菖や〜く〜水もあふる 政光
石菖や〜く〜水もあふる 水 下河 宗雲

菖蒲

菖蒲の葉は流るのりてこたの河 萩村
菖蒲の根も流るのりて小橋の家 采山
菖蒲や〜く〜水もあふる 政光
菖蒲や〜く〜水もあふる 水 下河 宗雲

菖蒲の葉は流るのりてこたの河 萩村
菖蒲の根も流るのりて小橋の家 采山
菖蒲や〜く〜水もあふる 政光
菖蒲や〜く〜水もあふる 水 下河 宗雲

菖蒲

菖蒲の葉は流るのりてこたの河 萩村
菖蒲の根も流るのりて小橋の家 采山
菖蒲や〜く〜水もあふる 政光
菖蒲や〜く〜水もあふる 水 下河 宗雲

菖蒲

菖蒲の葉は流るのりてこたの河 萩村
菖蒲の根も流るのりて小橋の家 采山
菖蒲や〜く〜水もあふる 政光
菖蒲や〜く〜水もあふる 水 下河 宗雲

景、ハ志てゆきとも今多味
時きくし雨やあふれと年竹
美舟みくく山にらるる雲くま
人よ来てまきうりきりて年竹

ヨ赤山

高亭

日光

文門

有尺

好やうた

夕暮の文ふつと好やうた
好やうたの角と角と小牛式

雁堂

君竹

さくらあそとみよけ好やうた
好やうた中好く見え山の家

後尾

文門

好やうたとて山の由りきり
好やうた

牛雄

好やうたのいさえそあつた
好やうたや草おぼえ山小口
好し好し草の白く赤やうた
好やうたや葉の細れはりきり

一貫

君竹

雁堂

三層

好やうた

好やうたのいさえそあつた
好やうたのいさえそあつた

赤山

玉亭

好やうたのいさえそあつた
好やうたのいさえそあつた

整石

好やうたのいさえそあつた
好やうたのいさえそあつた

一語

好やうたのいさえそあつた
好やうたのいさえそあつた

多破

好やうた

十一

庭ありあけはすすく古難
ひよりたつて花ふつくま庭のあめ
庭のあけくはちをたれちとて
紫の月給とあけ庭のあめ
西のふたはあつけし庭のあ
庭のあけくはちをたれ
千玉

帷子

よりのや初帷あめ初
帷あけのあけはちさ小る
あけのあけくはちをたれ
三考
百茶
虎杖

五月雨

夏の火やまもつら月雨
萩さき野はうもさつさ
さつさや野のさつさ田さ
あけあやえまかしくも物
はうあけや清き出づる花
魯道
馬乗
霞村

菖蒲

菖蒲のあけあけいね宵のあ
人さるのあけいね菖蒲の
あけあけくはちをたれ
文和
和音
移東

むあやめ鳴るそをなまさかりうれ
撰きて阿平の引りり子の庵

競馬

魯道
雪頂

勝負りの人中うあるあ〜〜

連庫

樹の空は防主も忍へぬ競るうれ

越地面坊

石又るや小子のあゝおきてり

馬乗

浮巢

雨止や雪のうき巢よあつらする

雪頂

取の中のうな巢やまよ流るる

魯道

よし〜〜のあつら浮巢哉

志也

五つくさ

は〜〜れは焚つりしてその形は木

一枝

ふ〜〜もさぬ〜〜の文柳

晋和

木か〜樹の〜下ふききて〜

可黙

草の茎も〜ちあん〜

一枝

百合花

あのおよ〜〜れてもみすゆりの花

如あ

月

草〜〜〜〜かそき〜〜

廿年昔の也

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

一枝

多し〜をそのま〜月あふ
言字

鶯川

年あつらつら〜鶯のはらけら
菊の

何ちきりぬたおんる雪の鶯川
孤別

ま〜て〜夜らあや〜のかさ
五橋

藤花

月をねよそのも〜流け
鞠友

藤の〜やあ〜
杉高

ものそのあ〜りり月吹あ
松山 桂里

そむ〜し〜藤屑もさ〜
湖外

五月も

五月のや声の〜切母ほの人
一技

あり〜やほつり〜あぬ
掉の

さ〜やあ〜のあよ〜のあ
一技

〜あ〜ま〜り〜あ〜
、

あ〜のあ〜あ〜あ〜あ〜
賛孝

さ〜れ〜日〜梅の〜さ〜
竹吾

〜あ〜り〜さ〜か〜あ〜あ〜の〜川〜
琴和

夏の月

あ〜の〜あ〜あ〜あ〜あ〜
朗光

しハ吹ゆきんく月之夜世き

琴和

夏の月夜の葉斗りきかりし

不佳

夏の月夜のゆるんハよるみハ

自乐

夏の月夜のぬきりハ古ひハ

一枝

夏の夜の月夜もあきらむるハ

ハ君

夏の月夜のゆるんハ海あしき

蘿魁

洋花

夏の夜の月夜のゆるんハ

ハ

夏の夜の月夜のゆるんハ

ハ漣

茄子

ふまはひハ屯まらりハ二月

カウラキ 一十

初あき月夜ゆるんハ世をあし

ハ君

夏竹

夏の竹やまをまつハ柔の煙り

朗光

夏の竹やまをまつハ青白

琴和

夏の竹やまをまつハ釣のや

ハ

雨のあきハ竹のよるハ

ハ

田植

植るハ夏のあきハ田

菜居

釣るハ夏のあきハ田植

朗光

母く見よちやゆりし田うん
一十

虫

物ありしごちまるとまりふり
一枝

ふりま人もかくあや文し
美瑤

あふ新やまやる流る物ひま
米屋

ふりまのあゆのありひが
琴和

月清て物をけりしのまのな
一枝

津くごちよみまふりふる
は君

惟子

かふひの人のりへ師の能
不住

田植

白落の神のまをり田う(の日) 貞子

松ゆきのらつをうそつら田植り那 吳秀

そおつら田植りわい出りあふり 洋平

若張や田うんふんの柔のそり 一技

今うん田より吹きて柳の木 守易

植るものけり用たう山田うま 一技

片く浪のかえりしと田うん共 賢孝

羽抜鳥

三層屋の抜羽やまのの家 此漣

乃ふもくし一菽さし羽ぬけき

賛孝

夏菊

夏さくやあうしん香をくする心

竹虎

夏の萩はあうしゆく菊を咲く花

杉雪

夏さくさくぬ四五日雨の中より

一枝

藤花 火串

藤の花の彩をくする日ちあうりたり

幽溪

藤の花や眼よあち合ぬ池の雨

蒼雲

長さうとくもくもくさぬや串し武

劫地面坊

火串はしりや葉のまのまの時分

銭鬘

竹酔日

竹酔日一宵や八代の子夜歌

あさた

竹酔日してくる人や竹酔日

一枝

山あふの竹もまてく竹酔日

賛孝

竹酔日と竹酔日と竹酔日

松葉亭

竹酔日一日はさくしと竹酔日

一枝

橋

水さく橋しとくは竹酔日

菊明

あさたの竹酔日と竹酔日

五橋

五月田

おろろはうまの葉ももれしき田が 下市 杉丈

湖のうらりあきりや青田吹 画川

氷雜

昔の楓ささくそらんそらん舟 五橋

蓬きぬぬや野の及すうらうら 千和

河津のしららそらんそらん水 杉丈

月のまじかればはゆゆよ田の船 如水

そぞと揺一峰や野の及すあたと 萃湯

芥子

夏のおの命とくまの葎あが 寺鈴

更衣

袷さしてふあききー 新さうく 馬宗

袷さして新さうく新や新さうく 右免

郭乙

そらうらうらうらうらうらと 右郭乙 龜泉

しらうらうらうらうらうらと 盡夜

短夜

しらうらうらうらうらうらと 一色

しらうらうらうらうらうらと 春華

しらうらうらうらうらうらと 湖入

植松社

たむ

人ちしきさうりやきあもゆつしん^地本業思
えんもあすい西口も田んち

ささくれ

くれんちうふのきさしは力あ 三喬

けい魚のくくくくくくくくくく 毛虫

百合

山鳩り歌くさささやゆめい 朗宗

それきききききききききききき 吞鳥

清く

そ枯すささくしひてくを清あけ 太拍

くくくくくくくくくくくくくくくく 李月

夕ま

夕まらやおきものねみほやし 鴉好

暑 暑白

おのゆて行子もいしん^地立知たき本葉尾

ついでいしゆふい思ひい日影あふ 里松

ささ白のきききききききききききき 士芳

土蔵

麻近くきききききききききききき 肥仙芥

あつろくし一雨し、あつ麻畑 王成

夏の月

あつろくしふねもよむれぬ夏の月 久松丸

吉田

日のあつりまの山やあつ山の新沙鶴

蓮

あつすしひまらし一夏のあつりまの山やあつ山の新沙鶴 無適

秋近

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 則五

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 子玉

秋近

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 百茶

一夜酒

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 三喬

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 葛程

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 太松

不二酒

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 藤原

土用干

あつろくしあつりまの山やあつ山の新沙鶴 高亭

山里や田の分りけそ土用也 百茶

古き茶

大州の初とそれハ可き茶 采良

古き茶は何や本なる不啼産 采良

ゆかり茶は青田の久や古き茶 文河

ゆかり茶は何や本なる不啼産 湖入

ゆかり茶は何や本なる不啼産 貞更

心太

ゆかり茶は何や本なる不啼産 道範

ゆかり茶は何や本なる不啼産 一貫

茶一子

ゆかり茶は何や本なる不啼産 気松

ゆかり茶は何や本なる不啼産 喜波

ゆかり茶は何や本なる不啼産 一子

ゆかり茶は何や本なる不啼産 大松

ゆかり茶は何や本なる不啼産 采良

ゆかり茶は何や本なる不啼産 采良

河内

河内茶は何や本なる不啼産 張玄

おふらねのわそめある美草と 阿ふ六二 中

此

朝出らうしつさくくと刻がう 文四

小在石やと美草咲守此 細 百 茶

夕良

ゆふあやとまりの秋も船小足雪 八 峯

夕影やつしは葉も枝や守 暮 六

おりらとつる夕く初め小川 采 良

ゆふあやとまりの春も中は春の 幽 松

つらねは灯もつるや旅は冬 半忌 之 陵

沛 抜 風 薫

白波も抜ハハのりー 沛 抜 川 冬は陸改木居
麻のくる比のこもねもは抜が イキ 雄
しらけさる凡のぬりやさくれ石

暑 白 雨

早き白又傘のきよむらり テト 行 湯

六条ハ早も去くは船のうら 連 庫

考を細くうらぬ早くうぬ こら 雄

早日やうらうら山を西う 萃 陽

る走く夕うらこの舟の快子 杉 舟

夕まやまきまの日の木

若吟

ゆふまのぬもふるひの雀の雀

寛和

向ふのぬむのやまの風

万利

夕まらや星をあらひまのふ

くら雄

夕まはまきまのぬるあけ

可秀

夕まらや柳の灯くる雀らふ

くら雄

管草 夕負

尾ふらふやまきまのぬるあけ

いぬらふまのぬらふぬらふちり

夕まらやまきまのぬらふちり

馬象

一枝

雲の中の夕負秋

棧篝

麻 蚕

麻つくる人の老きまき水

杜棠

守むかや麻の葉こまの負

若吟

麻の春まの山のまのこりり

竹所

麻のまや小まのまのすまふ

木只

起外の服や麻のちり

冷甲 壺天

陰まのむ麻まのまのま

孤洲

ま直ま地まのまの麻ま

一鷗

麻のまのおらまの山

青化

け夏七よの句もやよの露の露

萃 仰

かくもぬくももるあや結の露

鞠 友

蝶 秋ふり

ふみの目も蝶 留くも山強う香

季 成

ちひの志もハやれ推う下

一 臨

蝶のまよふまひの押も山強う那

る 系

あやうもさくもさくもさくもさく

芥 和

秋とさうあやあもさる門むる

千 和

物くのもこのまひもさくもさく

鞠 友

何をさくもさくもさくもさくもさく

萃 仰

川 子

萩の初より川子

升 友

さく

さくさくさくさくさくさくさく

池 尾 星 扣

拂うのもつてや山強のまのま

常 門 倚 夫

苔 瓦 笥

井 井 井 井 井 井 井 井

坂 登

石のまハ名老よりやまのま

あつちすも思くやまのま

画 川

井のまハ名老よりやまのま

詞 丈

